

2012年度一般社団法人アクティオ年次総会

5月20日、東京都内で一般社団法人アクティオ2012年度総会が開催され、全国から集った会員らは活発な意見交換、情報交換を行った。

開会にあたり水澤努代表理事が挨拶。「昨年度は人的・資金的リソースの充実を図り、様々な課題に取り組む人々が十分に活用できる市民メディア・市民ネットワークとしてのベースができた」とし、「今期限りで代表を降り、後任に託する」と語った。

つづいて議長に小川愛子さんを選出し、議事審議を開始。第1号議案として温井立央・共同代表から2011年度年決算報告が行われた。月刊『Actio』について、「会員以外の方からの定期購読申込み、委託販売などの動きが活発だった1年。認知度は高まっている」と報告、拍手で確認された。

助成金活動については理事の野本陽吾さんが報告、今年度も活動を続けることが示され、その後監査報告も行われて全



活発な意見のやりとりが行われた

体で了承された。

第2号議案では、2012年度の役員選出が行われた。投票の結果、代表理事に渡瀬義孝さん、温井立央さんが選任され、理事4名の留任と、新監事に新井淳子さんの就任も承認された。

続いて選任された共同代表の2人より抱負と方針案が提起された。

「昨年3・11以降、日本の戦後社会システムへの信頼が大きく崩壊しました。ソ連邦崩壊はチェルノブイリ事故とその後政府の対応がきっかけだった言われますが、今日日本が直面している事態も同じです。このなかで、私たちが何らかの社会的ミッションを果たしていくことが問われています」(渡瀬)

温井さんはこれまでの成果と問題点を踏まえ、今後の展望を提起。市民メディア『Actio』発行体制を安定的に支えるサポート会員制度の創設、フェイスブックなどオープンなSNSの利用で情報発信・共有の場を創るなど、地域をこえた幅広いつながりを創り出していきたくと提起した。

会員からは提案や意見のやりとりが閉会時間ギリギリまで続き、熱気に包まれるなか閉会した。

(鳥海幸恵)